2007 年 2 月 16 日発行

FOREX WEEKLY

三井住友銀行
SMBC SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION

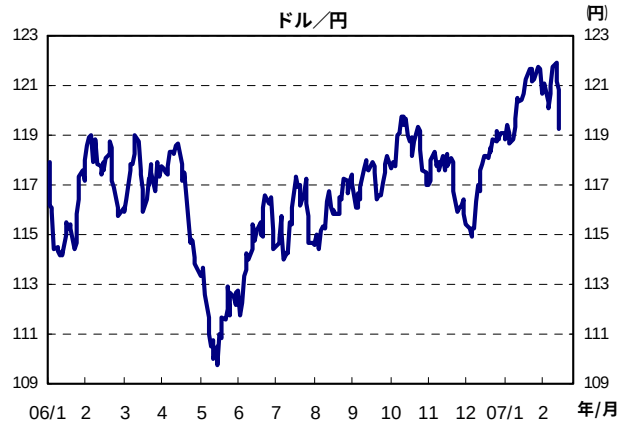
市場営業統括部　ﾁｰﾌ･ｴｺﾉﾐｽﾄ　山下えつ子
電話　03-3282-5879

来週のポイント

ドル／円：　日銀利上げ実施ならば円高

	週末 13:00	次週発行まで	３ヵ月後
ドル/円	*119.38 円*	*117.50-121.00 円*	*115.00-125.00 円*

- バーナンキ議長議会証言で米金利は低下基調。ドルは下落しやすい。
- 日銀の利上げ有無で円高、円安、へ反応が分かれる。



ユーロ／円：　日銀の利上げの有無による

	週末 13:00	次週発行まで	３ヵ月後
ユーロ/円	*156.82 円*	*154.00-158.00 円*	*150.00-160.00 円*
ユーロ/ドル	*1.3137ﾄﾞﾙ*	*1.3000-1.3200ﾄﾞﾙ*	*1.2500-1.4000ﾄﾞﾙ*

- ユーロ圏金利先高観、ファンダメンタルズ堅調、でユーロ堅調の基調は崩れず。
- ただし、来週は日本の利上げの有無が相場を作る。

（本レポートは本日 13:00 までの情報を元に作成しています）

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を喚起するものではありません。投資や資金運用に関する最終決定は、お客様ご自身で判断されるようお願い申し上げます。

足元のマーケット動向、及び来週の見通し

		今週のレンジ	来週の予想レンジ
ドル	ドル／円	119.17-122.10 円	117.50-121.00 円
ユーロ	ユーロ／ドル	1.2941-1.3173ﾄﾞﾙ	1.3000-1.3200ﾄﾞﾙ
	ユーロ／円	156.60-159.00円	154.00-158.00円

（今週のレンジは先週金曜日13:00～本日13:00、予想レンジは本日13:00～来週金曜日13:00）

＜今週の動向＞

G7会合で円安への言及がなく週初は円売りでスタート。ドル円は122円台に乗せたが、その後はドルじり安。14日のバーナンキ議長の議会証言を受けてドル売り、15日の日本GDPが強めとなったことで円買いとなり、120円割れ。15日の米鉱工業生産の下振れで119円台前半へ。ユーロ円は週初に159円を付けたが、15日からの円買いの中、156円台後半まで下落。

＜来週の見通し＞

再び金利に注目が移る中、14 日のバーナンキ議長の議会証言と 15 日の日本の 10-12 月期 GDP 一次速報値は相場に対して意外に大きなインパクトをもたらした。バーナンキ議長の議会証言では、エネルギー価格の低下による直接間接の影響からコア PCE デフレーターが今後緩やかに低下し、2008 年には Fed が望ましいとする 1～2%に収まる、との見通しが示された。市場にはインフレ警戒トーンが強まるとの見方も事前にはあったが、議会証言によって利上げ警戒感は払拭され、今度は弱めの材料に目が向きやすくなっている。既に米 10 年債利回りは 4.71%まで低下し（13 日は 4.82%だった）、ドル円も 119 円台まで下落。来週は 21 日に CPI および FOMC 議事録の発表がある。コア CPI 前年比は前月と同じ 2.6%または 2.5%への低下が見込まれる。FOMC 議事録ではインフレ圧力が弱まっているとの認識が書かれていよう。実際には当面、利上げも利下げもなかろうが、金利は低下しやすい地合いであるため、ドル売りにも繋がりやすい。

一方、日本では 10-12 月期の GDP が前期比+1.2%、前期比年率では+4.8%と予想（中心+3.8%）を大きく上回った。12 月、1 月の日銀の金融政策決定会合時の顛末、および日銀の軸足のブレによる政策スタンスの不透明感などがあり、今回の会合での利上げの有無を決め打ちはできないが、GDP を受けて利上げの可能性は五分五分よりは若干高まったと思われる。先の G7 会合では、円キャリートレードや円ショートポジションの積み上がりに対する警戒が暗に発せられており、その時点では為替市場の反応は鈍かったが、日銀が利上げを実施した場合には、あらためて思い起こされ、25bps 利上げ幅（＝日米政策金利差は 4.75%もある）に比べて為替市場の反応は大きなものとなるだろう。逆に利上げが再び見送られれば、GDP 発表後の円高分を剥すだろう。利上げ実施で来週のドル円は 117.50～120.00 円、見送りで 119.00～121.00 円。

ユーロ圏では今週発表された 2 月の独 ZEW 指数で現状指数が 70.6→70.9（予想中心 66.5）となり、年初からの VAT 引き上げの影響が限定的であった可能性が示唆された。ユーロ圏第 4 四半期 GDP も前期比+0.9%と第 3 四半期の+0.5%から更に加速。来週も 23 日に独 ifo 景況指数が発表されるが、ZEW 指数の動向からは類似した結果が得られるものと思われる。既に 8 日の ECB 理事会では「strong vigilance」との文言が使用され 3 月利上げはほぼ確実となっているが、ECB は景気先行きには楽観的。ユーロ自体はしっかりだが、来週の相場は日米の材料が支配的。